

祥雲閣

たより vol.47

祥雲閣の風景

～初夏～



祥雲閣の庭園は春を告げる桜につづき、あやめやつつじなど初夏の花々が開花を迎えようとしています。

あやめは山野に自生し、庭園にも多く植えられています。名の由来となった花卉の網目模様が特徴です。

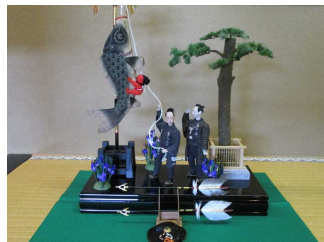


からのお知らせ

5月に入り、祥雲閣の庭園の樹々がさわやかな緑の葉におおわれて、五月晴れの空に新緑が美しい季節になっています。

祥雲閣では、茶道をはじめ日本の伝統文化に気軽に触れていただく機会を作るため、お雛様や五月人形、季節の茶道具などの展示をしています。

四季折々の庭園を眺めながら、様々な道具や飾りをご覧くださいと共にご覧いただき、ぜひお茶とお菓子を味わっていただければと思います。



つつじはいろいろな品種があり、生垣や盆栽など鮮やかな赤やピンク色の花をつけます。つつじは漢字で書くと「躑躅」。足踏みという意味があり、美しい花を見た人が足を止めると言われる事に由来するそうです。※諸説あります。

今年は桜のたよりが例年より早く聞かれ、ようやく来た春が駆け足で過ぎていきました。五月六日は二十四節気の立夏です。暦の上では夏が始まり、日も長く日差しも強くなります。室内にいますと、外の天気さえわからないことがあります。庭園で季節の移ろいを感じてみるのはいかがでしょうか。

立礼茶室

テーブルと椅子の設置された茶室。



抹茶

茶筌でふんわりと立てられ軽やかな香りと風味、すっきりと飲みやすいお茶です。



煎茶

独特のうまみと甘味の一煎目と程よい渋味・香りにさっぱりとした後味の二煎目を味わえます。



大崎市祥雲閣

令和5年 5月 8日発行

〒989-6105

宮城県大崎市古川福沼一丁目2番2号

TEL・FAX 0229-24-3385

季節によって変わる



茶室のしつらえと茶道具



茶室のしつらえは半年ごとに「風炉」と「炉」に変わります。湯を沸かす為の茶道具を風炉と言ひ、室町時代以前は季節を問わず一年中風炉が使われていたそうです。千利休により、位置や寸法が完成され現在の形になったそうです。※諸説あります。

炉は囲炉裏の略語で畳の一部を切って床下に備え、釜を掛けてお茶を点てるためのお湯を沸かします。



「風炉」

暖かい五月から十月は茶室が少しでも涼しくなるよう客から遠い位置に風炉を置きます。



「炉」

寒くなる十一月から四月は茶室が暖まるよう畳に「炉」を切ります。



「夏は涼しく、冬は暖かに」と季節感を大切にして、お客様をお迎えしようという千利休の心づかいが感じられます。

カレンダー

※ は休館日（変更する場合があります。）

5月							6月							7月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	⑥					1	2	③							①
7	8	9	10	11	12	⑬	4	5	6	7	8	9	⑩	2	3	4	5	6	7	⑧
14	15	16	17	18	19	⑳	11	12	13	14	15	16	⑰	9	10	11	12	13	14	⑮
21	22	23	24	25	26	㉑	18	19	20	21	22	23	㉒	16	17	18	19	20	21	㉓
28	29	30	31				25	26	27	28	29	30		23	24	25	26	27	28	㉔
														30	31					

◆◇◆祥雲閣のご案内◆◇◆

和の空間で四季折々の庭園を眺めながら、500円でお茶とお菓子を味わえます。(10時～16時まで)

茶道をはじめ、箏、仕舞・謡、日本舞踊等の発表会やお稽古にご利用いただけます。

貸館をご希望の方は、下記にお問い合わせ下さい。



◆所在地 大崎市古川福沼一丁目2番2号

◆電話 0229-24-3385

◆交通 JR古川駅から徒歩約20分
東北自動車道古川ICより車で約10分

◆駐車場 有

◆休館日 月曜日（月曜が祝日の場合は翌日）

◆入館料 無料

